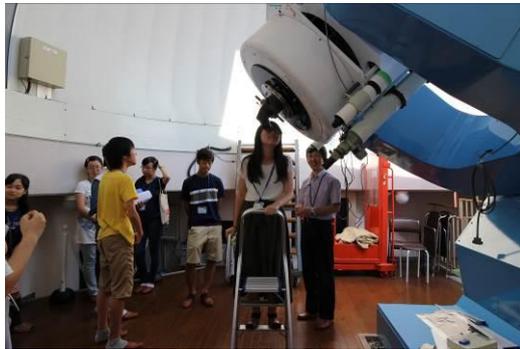


平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29231 プログラム名 日本一の望遠鏡を使って天体観測



開催日：2017年8月21日～23日

実施機関：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所

(実施場所) (西はりま天文台)

実施代表者：伊藤洋一

(所属・職名) (兵庫県立大学 教授)

受講生：高校生 13名

関連URL：<http://www.nhao.jp>

【実施内容】

[プログラムの工夫点]

講義では星座早見盤や簡易分光器(虹みえーる)、偏光の仕組みを理解する「すりぬけーる」を製作させ、受講生が主体的に講義に取り組めるよう工夫をした。また、色電球と色フィルターを使って「星の色と観測波長」について実体験してもらったり、白熱灯と蛍光灯を「虹みえーる」で観察することにより、連続光と輝線の違いを理解できるようにした。天文学は対象物を手に取ることでできな

い学問なので、このように身近な道具を使って天体観測を模擬することに努めた。

[当日のスケジュール]

8月21日

- 14:00-14:30 開所式と科研費の説明
- 14:40-15:30 昼間の星と太陽の観察会(写真 1,2)
- 15:40-17:30 講義
- 19:30-21:00 なゆた望遠鏡による観望会
- 21:00-24:00 観測実習

22日

- 10:00-13:00 受講生の自発的な解析実習
- 14:00-15:50 講義
- 16:00-17:50 解析実習(写真 3)
- 19:30-25:00 観測実習

23日

- 10:00-11:30 成果発表(写真 4)
- 11:30-12:00 未来博士号授与式(写真 5)
- 12:00 解散 (写真 6)



写真 1: 専用望遠鏡で太陽を観察



写真 2: 「60cm 望遠鏡」で昼間の星を見る



写真 3: 取得したデータの解析

[実施の様子]

本プログラムは一日目二日目ともに天候に恵まれず、事前を取得した「小惑星の自転周期の観測」と「太陽系外惑星のトランジット観測」のデータを解析することにした。解析にはウィンドウズで動く簡易測光ソフトウェア「マカリイ」を使用した。いくつかのグループではきれいな光度曲線を作成することができた。成果発表では、深い考察を提示したグループもあった。

[事務局との協力体制]

兵庫県立大学本部地域貢献課には定常的に事務作業を行ってもらっている。日頃から十分な意思疎通を図っているため、本プログラムにおいても支障は生じなかった。

[広報活動]

天文台にある大型プロッターを使い、本プログラムのポスターを作製した。そして、過去に西はりま天文台を利用したことのある30程度の高校や、兵庫県内の高校にもポスターを郵送し、校内に掲示するようにお願いした。一方で、天文台のホームページでも本プログラムについて告知を行った。

[安全配慮]

西はりま天文台は公開天文台でもあり、年間で6万人程度の人が訪れる。そのため、敷地内で事故が起きた場合に備えて保険を常にかけている。この保険は本プログラムにおいても有効だった。

[今後の発展性]

昨年度の同プログラムに参加した学生が、兵庫県立大学の理学部に入学した。今年度も「将来、大学で天文学を学びたい」という参加者が複数いた。このような機会を継続して設けることにより、天文学に対する興味を伸ばしていきたい。

[課題]

太陽系外惑星の観測は非常に難しく、条件の良い夜に取得したデータを使わないと、深く議論することが難しいことが分かった。今後は、湿度が低く快晴の夜にバックアップのデータを取得したい。



写真 4: 成果発表会の様子



写真 5: 未来博士号の授与



写真 6: 「なゆた望遠鏡」の前で記念撮影

【実施分担者】

石田俊人 自然・環境科学研究所・准教授
大島誠人 自然・環境科学研究所・研究員
高山正輝 自然・環境科学研究所・研究員
高橋隼 自然・環境科学研究所・特任助教
本田敏志 自然・環境科学研究所・特任助教
森鼻久美子 自然・環境科学研究所・研究員

【実施協力者】 5 名

【事務担当者】

杉山徹 地域貢献課・職員